

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 28日

事業所名 ヴィストカレッジ金沢駅前

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		・バーナーコンロを使い、一部座を区切り集中できる環境を提供している。 ・必要なロッカールームを確保している	・エントランスでソーシャルディスタンスが保てない状況があったため、新事業所に移転し解消する予定である。
	2 職員の配置数は適切である		○		・利用者さんの目的に沿った合同個別ワークの実施している。	・法令は満たしているが、電話対応不可の時間帯がある。2月以降、スタッフ数を増やし、4月～完全に解消される予定である。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○			・階段を上がらなければ来所できない状況がある。移動時のフォローやサポートが必要な児童に対しては、個別に対応する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			・全体MTGを行い、スタッフ全員で検討し取り組みを行っている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			・アンケート結果をもとに、改善策を検討している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			・ホームページにて公開し、疑問点などは適宜回答を行っている。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○				
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			・富山もあわせた拠点合同の勉強会を毎月3回以上実施している。	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			・個別支援会議を定期で実施し計画案を検討している。 ・振り返り面談(半期に1回)での対話、ニーズの確認を随時行っている。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			・全員のアイデアを持ち寄り、計画を実施している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			・シフト作成の際のイベント案を全スタッフより回収。より楽しく将来に必要なスキルを得られる内容を目指している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			・宿題対策講座、夏茶会など季節に応じたプログラムを設定している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			・前日の支援の振り返りを毎日朝礼にて行っている。	・実務の優先事項を見直し、支援開始前までに確実に児発管が支援内容を把握できるようにする。 ・集団ワークでは、実施スタッフがワーク内容と分担を共有できているようにする。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			・特に問題があったときにはすぐに共有している。 ・翌日に朝礼にて前日の振り返りを行っている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			・毎月児童の記録を確認。抜けがあった場合は報告を実施している。	・毎月最初の開所日にケア記録チェックを各スタッフが行う時間を設ける。
	18 定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			・相談員へのケア記録の送付やコロナ禍でも電話での申し送りを行っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○					
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			・管理者中心に参加している。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			・学校連携に合わせて、電話にて支援内容や本人の様子などを報告している。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		・発作が起きた際の対応をスタッフ間で共有している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			○	・保護者からの聞き取りを中心に必要に応じて連絡を取っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			・担当者会議を実施して情報提供に努めている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			・保護者セミナー開催を通して、連携をとっている。 ・発達障がい者支援センターのスタッフに協力を得て保護者交流会を実施している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	・チラシや事業所紹介のお便りを配布している。	・コロナ禍の中実施できる方法を探っていく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			・支援後の対話や電話にて共通理解を図っている。 ・定期的に文章によるフィードバックを送付している。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			・保護者向けセミナーを定期開催している。	・今後研修に参加し、専門性を高めていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			・面談を通し説明を実施している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			・支援前後での対話や支援報告を実施している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			・保護者交流会を年2回以上実施している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				・苦情が発生した場合には、直接での対話に合わせて面談日を設定し、事実報告と改善策、再発防止策を提案していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			・会報を発行、配布している。 ・SNS等で活動概要を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○				
非常時等の対応	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			・意思伝達決定支援事業の研修に参加している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			・地域に向けたオンラインイベントを企画するもコロナ禍の中、参加者がいない状況であったため、外部と連携する方法を検討する必要がある。 ・新事業所移転の際に地域住民を招待しVR体験会などを行う予定がある
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		・見えるところに掲示がある。	・マニュアルの周知と訓練の実施を行う。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている			○		・危機管理研修は実施している。避難訓練については、年2回、継続的に実施していく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			・全スタッフが研修に参加している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			・食べ物を提供する場合、個人情報ファイルのアレルギー欄を必ず確認している。	
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			・管理者への報告体制がとれている。毎週月曜日の朝礼にて全スタッフで確認している。		